



なぜ認可を受けずに グループリビングを開くのか 高齢者施設の現場から

1994年に当時の米沢生協が始めた無認可の介護施設「たくろう所」。その後、グループホーム、介護保険事業のデイサービスセンターへと広がった。

その活動を基盤に2009年から自立と共生型の高齢者施設として、高齢者共同運営住宅「グループリビング」が取り組まれた。そして、2号館の開設を18年7月に控える。介護保険に頼らずにこの施設を運営する特定非営利活動法人「結いのき」のチャレンジを、専務理事の井上肇さんに聞いた。

無認可介護施設 たくろう所を開設

米沢生活協同組合（現・生活クラブやまがた生協）では、1990年代に入って共同購入での配達時間や集金にかかる時間が長くなるという現象が目立ってきました。事情を探ると原因は組合員の高齢化にありました。一方、高齢の組合員にとって班活動、配達職員とのコミュニケーションは、助け合い活動になっっているという声も聞こえてきました。

こうした状況を踏まえて福祉活動への関心が高まり、92年には「生協の互助組織として在宅福祉活動を組合員の力でできないか」という提案が出されました。そして93年の1年間、各方面から講師を招き全6回の「暮らしの講座」を開催しました。これらの学習会を経て、94年、米沢市通町^{とわり}の学童保育施設の一室を借りて「米沢生協たくろう所」を開設し、

井上 肇 Hajime INOUE

特定非営利活動法人 結いのき 専務理事

特定非営利活動法人結いのき専務理事の他に、一般社団法人置賜自給圏推進機構専務理事、災害ボランティア「ボランティア山形」代表理事を務める。著書に、「結いのき物語」（山形新書2007）、「市民の力で東北復興」（共著・ほんの木2012）など。

半日のデイサービスから始めました。

たくろう所は、「自宅と同じお世話をする所」と位置付けていましたので資格者もいないし、事故があっても当たり前という考えでいました。誤解があるといけないので付け加えますが、自宅でも施設でも事故は起こるものです。対象者が多くなり、お世話する側も多くなることの方が事故の確率は高くなると思っていました。

当時のたくろう所のスタッフはみな素人です。スタッフは有償のボランティアでお願いしていました。スタッフには高齢者介護の経験者も多く、励まし合い、対処のやり方を教え合いながら経験を積んでいきました。たくろう所に来ることで、良い刺激を受け意識も行動もはっきりしてくる利用者に、スタッフが驚かされたり、元気をもらったり、双方励みになりました。